

**みんなここから旅立った！**

**優れた画家を育み、近代京都画壇の拠点となった美術の「学び舎」**

**京都市立芸術大学移転記念 特別展「巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた」**



中村大三郎 《ピアノ》 1926 年 京都市美術館蔵

**京都市立芸術大学の前身となった、京都府画学校、  
京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校を振り返り、  
教員、卒業生の画家総勢 47 人を紹介。**

2023（令和 5）年、京都市立芸術大学はキャンパスを京都駅東部へ全面移転しました。京都市立芸術大学は、1880（明治 13）年に京都府画学校として開校して以来、何度も校地を移転しながら歴史を重ねており、今回もまた新たな歴史の 1 ページとなります。

近代京都の画家たちが、日本画の将来を見据えながら、紡いできた学校の歴史。竹内栖鳳、山元春挙などが教壇に立ち、土田麦僊、村上華岳、小野竹喬ら数多くの画家が学びました。本展では、のちに巨匠となり、画壇に燦然と輝いた日本画家たちの若き日の挑戦作や、教員となった画家たちが矜持をもって制作した名作を、学校の歴史とともに回顧します。大学の前身である京都府画学校や美術工芸学校、絵画専門学校で研鑽を積んだ 47 人の画家を一堂に紹介。学校時代に、悩みながら制作した卒業制作や画壇デビュー時の作品など、画家の初期作と、評価を高めた充実期の代表作が並びます。京都の近代美術を育んだ場所「学び舎」について、知るための機会になれば幸いです。

#### ◆みどころ

### **1. 竹内栖鳳、土田麦僊、福田平八郎・・・名だたる日本画の巨匠 47 名の優品が集結！**

京都市立芸術大学の前身となる京都府画学校、京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校ゆかりの日本画家から、47 名もの巨匠が集結するかつてない展覧会です。

## **2. 初期作と、評価を高くした充実期の代表作が並ぶ！**

本展では、47名の日本画家それぞれの初期作と、充実期の名作を展示します。  
変わったところと、変わらないところ。画家たちの個性をお楽しみください。

## **3. 明治から昭和まで、学校とともにたどる京都画壇の歩み**

新しい日本画のすがたを求めて挑戦を続けた日本画家たち。

時代を映すように変化していく作品をたどりながら、京都の日本画を貫く不変の魅力にも迫ります。



土田麦僊 《朝顔》 1928年 京都国立近代美術館蔵 [後期展示]

### ◆本展の構成

#### 日本初の公立画学校！京都府画学校の時代

1880（明治13）年、京都の日本画を盛り上げるべく設立された近代的絵画教育施設。

様々な流派の画家が教員となった。



左：鈴木松年《双龍図》（部分）1912年



右：幸野樗嶺《花鳥山水貼交屏風》（部分）明治期

#### 美工・絵専で教えた画家教員

1894（明治27）年に美術工芸学校（美工）と改称、1909（同42）年に京都市立絵画専門学校（絵専）が設立。画家の育成も本格化する。教員には竹内栖鳳や山元春挙、菊池契月や木島櫻谷など画壇の重鎮画家たちが名を連ねた。



左：木島櫻谷《角とぐ鹿》1932年 京都市美術館蔵 [後期展示]

右：菊池契月《散策》1934年 京都市美術館蔵 [前期展示]



竹内栖鳳《獅子巖壁》1904年頃 豊田市美術館蔵 [前期展示]

## 卒業生、いざ画壇へ

1911（明治44）年、絵専で初めての卒業生となったのは土田麦僊、小野竹喬、村上華岳、入江波光、榊原紫峰ら、次世代のニュースターとなる面々であった。



左：村上華岳《阿弥陀》1916年 京都市美術館蔵 中：土田麦僊《髪》1911年 京都市立芸術大学芸術資料館蔵 [前期展示]

右：小野竹喬《海》1974年 京都市美術館蔵 [後期展示]

## 大正時代、個性際立つ画家のエネルギー

大正、自由主義の風潮のなか、青春を謳歌する画家たち。堂本印象、福田平八郎、中村大三郎らが登場。



左：不染鉄《山海図絵（伊豆の追憶）》1925年 公益財団法人木下美術館蔵 [後期展示]

中：岡本神草《口紅》1918年 京都市立芸術大学芸術資料館蔵 [後期展示]

右：稲垣仲静《猫》1919年頃 星野画廊蔵

## 戦中～戦後、日本画の可能性

伝統的な日本画の枠組みを再考し、新機軸の芸術を生み出そうとしたのは、勢いのある若い世代だった。



左：下村良之介《池畔》1957年 京都市美術館蔵 右：三上誠《作品（化石）》1957年 福井県立美術館蔵 [後期展示]

### ◆開催概要

タイトル：京都市立芸術大学移転記念 特別展「巨匠たちの学び舎 日本画の名作はこうして生まれた」

会期：2024年10月11日（金）～12月22日（日）

【前期】10月11日（金）～11月17日（日）【後期】11月19日（火）～12月22日（日）

※会期中一部展示替えあり

会場：京都市京セラ美術館 本館 南回廊 1F

開館時間：10:00～18:00（入場は閉館30分前まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）

観覧料（税込）：一般 1,800円（1,600円）/大学・高校生 1,300円（1,100円）/中学生以下:無料

\*（）内は前売、20名以上の団体料金 \*京都市内に在住・通学の高校生は無料

\*障害者手帳等をご提示の方は本人及び介護者1名無料（学生証、障害者手帳等確認できるものをご持参ください）

チケット8月7日（水）より発売：美術館公式オンラインチケット、チケットぴあ（Pコード：687-049）、ローソンチケット（Lコード：52467）、セブンチケット（セブンコード：107-295）ほか主要プレイガイド

主催：京都市、毎日新聞社、京都新聞

特別協力：京都市立芸術大学、協力：サンエムカラー

お問い合わせ：TEL. 075-771-4334

交通案内：電車/地下鉄東西線「東山駅」から徒歩約8分、京阪電車「三条駅」から徒歩約16分 市バス/「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ

### ◆関連プログラム 1

## 日本画の世界をより深く知るトークイベント

日本画の巨匠が作品制作や学びの現場でいかに悩み、葛藤してきたかを、様々な角度から改めて考察します。

「画家たちの青春—若気の至りは美術の宝」

2024 年 10 月 26 日（土）14:00～15:30

講師：田島達也（京都市立芸術大学教授）

「卒業制作よもやまばなし」

2024 年 11 月 9 日（土）14:00～15:30

講師：松尾芳樹（京都市立芸術大学芸術資料館学芸員）

「日本画家たちにとっての学び舎」

2024 年 11 月 17 日（日）14:00～15:30

講師：森光彦（京都市京セラ美術館学芸員）

「日本画の「学び方」はどう語られてきたか」

2024 年 12 月 15 日（日）14:00～15:30

講師：川嶋渉（日本画家、京都市立芸術大学教授）

会場：京都市京セラ美術館地下 1 階講演室 料金：無料（予約不要、先着順、要本展観覧券）

定員：各回 60 名 ※その他ギャラリートークなどを実施します。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

◆関連プログラム 2

京都市立芸術大学の学生デザインの和菓子を販売

会期中の特別企画として、京都市立芸術大学の学生のデザインによる、本展出品作品をイメージしたオリジナル和菓子を当館カフェ「ENFUSE」にて販売します。

協力：京菓子司 金谷正廣



※画像はイメージです

■展覧会カタログ

展覧会出品作品をカラーで掲載！近代京都画壇の名作が生まれた背景や京都市立芸術大学につながる学校のあゆみがよく分かる解説のほか、論考やコラムも充実。

論考執筆・作品解説：森光彦（京都市京セラ美術館学芸員）、福田里和（同館学芸補助）、陳鶯（同館学芸補助）

編集：京都市京セラ美術館 学芸課

言語：日本語・英語

価格：未定

判型：B5 変形（244 ページ予定）

発行：京都市京セラ美術館

発売日：2024 年 10 月 11 日

内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

【本展のプレス問合せ先】京都市京セラ美術館 広報 西谷・川口 pr@kyoto-museum.jp 電話：075-275-4271